

見附市公共施設等グランドデザイン案を策定しました

見附市には、これまでのスマートウェルネスみつけの取組によって、外出を促すような魅力的な公共施設が数多くあり、市民の皆様に親しまれていると考えています。

しかしながら、全国的な傾向と同様に、本市においても今後、多くの公共施設が更新期を迎えます。老朽化が進んだ施設への対応に加え、人口減少や中長期的な視点に立った財政対策という課題にも向き合いながら、将来世代に過度な負担を先送りすることなく、持続可能な施設運営と時代に即した魅力ある公共サービスを両立させるため、公共施設の最適化に取り組んでいく必要があります。

今回、第6次見附市総合計画に基づき、限られた財源や空間などの資源を前提に、公共施設が提供するサービスの効果や効率を最大化するための基本的な方針を示す「見附市公共施設等グランドデザイン案」を策定しましたので、お知らせします。

1. グランドデザイン案の概要

(1) 位置付け

グランドデザインは、限られた財源、人材、空間などの資源を前提に、公共施設が提供するサービスの効果、効率、公平性を最大化するための方針を示すものであり、公共施設の総量抑制・長寿命化などの管理方針を定める「見附市公共施設等総合管理計画」や、個別施設の具体的な対応方針を定めた実行計画である「見附市公共施設個別施設計画」に方向性を与えるものです。

(2) 計画期間と目標

計画期間：令和9年度（2027年度）～令和18年度（2036年度）の10年間

計画目標：計画終了時点までに年間1億～2億円（ソフト事業含む）の収支改善

※なお、上記目標はハード・ソフト両面から以下の3層で積み上げます。

① 構造改革（必達目標）

施設の統廃合・民間活力の活用・機能停止などによる最適化

② 経営効率化（努力目標）

DX推進・省エネ化・使用料の見直し等による収支改善

③ 財源創出（プラスアルファ目標）

民間活力を活用した広告・資産活用による新たな収入確保

(3) 最適化にあたっての3つの視点

以下3つの視点を基本的な検討軸としながら、施設毎に利用状況や老朽度、維持管理コスト、代替可能性、市民や時代のニーズを分析し、施設・運営の両面から公共施設の最適化を進めます。

① 全体最適視点	② 中長期視点	③ 防災・安全視点
市全体の公共施設マネジメントの観点から、役割・配置・規模・代替可能性・広域連携などを多角的に分析	人口ビジョンや中長期財政見通し、利用実態を踏まえ、10年にとどまらない長期的視野で判断	避難所・防災拠点としての機能維持を必須検討事項とし、地域防災計画との整合を確保

(4) 施設類型毎の基本的な方針

第6次見附市総合計画の各目標および本グランドデザインの基本戦略との整合を図りながら、学校関連施設、集会施設（公民館、ネーブルみつけ等）、スポーツ施設、文化関連施設など施設類型ごとの検討方針を示しました。

(5) 具体的な進め方

基本的な3つの視点を持ちつつ全公共施設を対象に、①対象施設の分類・整理、②個別施設の実態把握、③受益者負担の適正化検討、④収入歩合制施設の収入改善検討、⑤新たな収入源の検討、⑥アクションプラン対象施設の決定、の6ステップで段階的に検討を進めます。

(6) アクションプランの作成

抽出されたアクションプラン対応施設を対象に、実施工程・手法等の具体的な内容を設定します。
なお、アクションプランは、公共施設個別施設計画の中に位置付けられます。

2. 今後のスケジュール（予定）

- 令和8年7月 公共施設に関するタウンミーティング開催
- 令和9年1月 公共施設等総合管理計画(案) 公表・パブリックコメント実施
⇒令和8年度内目途に策定
- 令和9年3月 アクションプラン(案) 公表 ⇒ 同年4～5月に説明会開催予定
- 令和9年7月 公共施設個別施設計画(案) 公表・パブリックコメント実施
⇒令和9年度内目途に策定